Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

「教育実習　演習」の実践的研究　Ⅱ研修旅行について

―学校行事・関連教科の目的の共有化―

○ 植草　一世　松原　敬子（植草幼児教育専門学校）　鈴木　朱美（同附属幼稚園 ）

はじめに

平成7年度 第48回保育学会「教育実習 演習」の実践的研究-学校行事・関連教科の目的の共有化-（植草一世他）では、「教育実習 演習」での体験の機会を増やす努力はもちろんのことそれを補うために、附属幼稚園と養成校の行事のあり方の検討、関連教科の援護体制に重点を置き、学生の意識づけを明確にし、2年課程の教員養成のより効果的な実習のあり方を検討してきた。

「研修旅行」は、1泊2日遠隔地で学生と幼児が生活を共にするというものである。学生側からすれば「研修旅行」幼児側からすれば「宿泊保育」ということになる。幼児側の楽しみ・不安、保育効果について「遠隔地における宿泊保育に関する研究」「同Ⅱ」（金子智栄子 他 保育学会第41会大会 第42会大会）で検討された。

今回は学校行事である「研修旅行」に焦点を置き実習の最終段階として２年課程の中に位置づける事を検討していく。

方法

本校では、昭和54年から群馬県高原千葉村で3回、昭和57年から現在まで静岡県御殿場の東山荘などの施設で15回研修旅行を行っている。園児が参加するようになり11回目となった。研修旅行は、学生側の企画に幼稚園の園児が参加するという形をとっている。企画 準備から始まり実際に園児を一泊二日預かるということは、幼稚園側、教諭の立場の責任が打ち出されている。

＜ 平成８年度「研修旅行」について＞

＊研修場所：「東山荘」（静岡県御殿場市）

＊参加者：植草幼児教育専門学校

１年生（２５期生）140人

２年生（２４期生）143人　計283名

植草幼児教育専門学校附属幼稚園

花組　４歳児　27人

星組　５歳児　22人　計　49人

＊係り学生の役割分担

・園児係　２年生のみ　50人

・他の係り　｛学友会（執行部）；ｷｬﾝﾌﾟﾌｧｲﾔｰ；食事；お風呂；美化；ﾊﾞｽﾘｰﾀﾞｰ；宿泊；保健；交流会｝

１年生全員　140人　：２年生　93人

＊調査方法＊

・調査日：箱根研修旅行終了後　1996年9月～10月

・調査対象：研修旅行参加学生

・手続：アンケート調査用紙配布

・ｱﾝｹｰﾄ回収率：1年93.6%　2年91.6%（園児係100%）

結果

表1　園児係になって、困ったこと、つらかったこと

1	事前の様子から、信頼関係が持てるか不安だった	2
2	子供がマイペースで単独行動だった	2
3	具合が悪くなり対応に戸惑った	2
4	保育者としての認識が甘かった	1
5	気持ちが暗くなるくらい、疲れた	1
6	具合が悪くても子供の相手をしなくてはならない	1
7	忙しかった	1
8	朝早かった	1
9	次に行うことが理解できず、慌てた	1
10	帰りの支度の時間がなかった	1
11	遊ぶ会であまり話をしてくれなかった	1
12	意気込み過ぎて、遊ぶ会では一緒にいられなかった	1
13	子供にかかりきりで、昼食が食べられなかった	1
14	元気が良すぎて他の子供を巻き込みそうになった	1
15	子供の気持ちにムラがあること	1
16	疲れ顔だったので、積極的でなかった	1
17	熱があったので、体調を気にしていた	1
18	子供があまりトイレにいかなかったこと	1
19	キャンプファイヤーの時、突然いなくなってしまった	1
20	担当園児を２人でみたこと	1

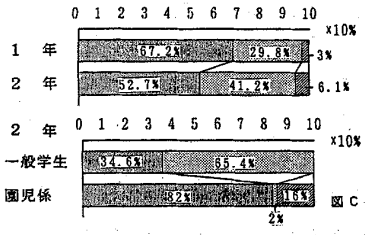
表2　研修旅行を終えて、自分自身に変化がありましたか？

1　年		2　年　（一般学生）		2　年　（園児係）	
1 先輩と交流がもてた	34	1 特にない	27	1 責任感がついた	9
2 友達が増えた	27	2 1年生と交流がもてた	13	2 成長した	9
3 特にない	24	3 責任感がついた	10	3 子供のことがより理解できた	9
4 頑張ろうと思った	16	4 良い経験になった	9	4 前より子供が好きになった	3
5 クラスがまとまった	9	5 頑張ろうと思った	8	5 子供の世話の大変さがわかった	3
6 先輩達を見て感動した	7	6 リーダーシップがとれた	5	6 保育者になりたいと強まった	3
7 成長した	6	7 2年生としての自覚がもてた	5	7 自信がついた	3
8 保育者の自覚がもてた	4	8 クラスがまとまった	4	8 思いやりがついた	3
9 積極的になった	4	9 積極的になった	4	9 保育者の責任感さも感じた	2
10 早く子供に接したい	3	10 充実してた	4	10 保護者と関われた	2
11 早起きは気持ちが良い	3	11 友達が増えた	3	11 園児と交流ができた	2
12 独自の連帯感があった	3	12 感動した	1	12 特にない	1
13 楽しかった	3	13 保育者の自覚がもてた	1	13 子供の健康状態を発見した	1
14 参考になった	3	14 集団生活の大切さを知った	1	14 まず子供先生に考えた	1
15 良い経験になった	3	15 年齢の年齢の大切さを知った	1	15 常識判断ができた	1
16 自信がもてた	2	16 年齢が近づいた	1	16 2年生としての自覚がもてた	1
17 集団生活の大切さを知った	2	17 能力ができた	1	17 計画し実践ができた	1
18 精神に不安を感じた	2	18 前がまた好きになった	1	18 クラスがまとまった	1
19 学校が楽しくなった	1	19 一部の人だけが楽しんでいる	1	19 充実してた	1
20 責任感がついた	1	20 おかしを食べるくせがついた	1	20 頑張ろうと思った	1
21 充実してた	1			21 年齢が近づいた	1
22 雰囲気がよかった	1			22 独自の連帯感があった	1
23 園児と楽しく過ごせた	1			23 早起きができた	1
24 緊張感しくなった	1				
25 リーダーシップがとれた	1				
26 人の温かみを知った	1				
27 体力をつけたい	1				

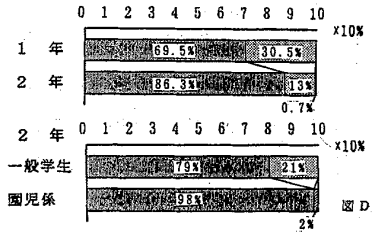
NII-Electronic Library Service

Japan Society of Research on Early Childhood Care and Education

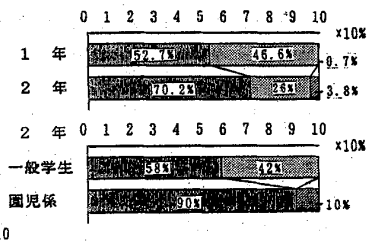
図A　園児係になりたかったですか？



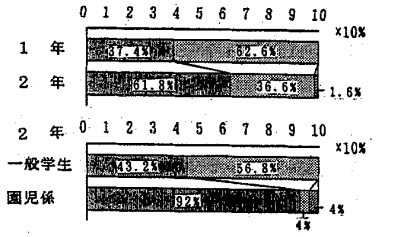
図B　園児を意識していましたか？



図C　園児に関わろうとしましたか？



図D　園児との接点があったと思いますか？



考察

1、以上の結果から園児係は準備段階から合宿保育当日まで不安要素がたくさん上げられている(表1)。しかし自分自身の変化では、より多くの変化が認められる(表2)。不安要素とは、自覚していようといまいと自己課題であり、解決されたという事は達成感につながり自分自身の変化につながったと思う。また課題が解決されなかったものは、自分自身の課題がより明確になった。特に、保護者との対応は学生にとって大変緊張しそのために上手に出来なかったという声があがっている。しかし表情は大変明るく口々に「良い経験でした」と答えている。その点、その他の係りの2年生は「特にない」という気になる回答があった。これは、自分自身の課題が既に1年次に解決されており2年次としての新たな課題をもってなかった者と推察される。というのは、園児係:学友会:各係りのﾘｰﾀﾞｰからはこのような回答が見られなかったからである。

2、「園児係になりたかったかどうか?」(図A)という質問では、園児係は自ら選択した学生なのでもちろん確率は高い。以外だったのは2年生の他の係りの学生に「園児係になりたくない」と答えた学生が数多く出たことである。(65.4%)理由として　①友だちと一緒にいたい ②他の係りになりたかった ③大変そうだから④自分の時間がない⑤行動が違いすぎる等が上がっている。②と答えた学生は、研修旅行には他に二つの目的がありそちらに焦点を合わせた結果であろう。園児係は他の係りに支えられ成り立つので②と答えた学生がいなくては困る訳で当然予測できる答えである。だが①③④⑤と答えた学生は、2年生は2回目の経験であり全体の動きが予測できる結果であろうと思う。そういう意味で、少数意見であるが全体と園児係のｽｹｼﾞｭｰﾙの調節も再度検討の余地があると思う(別紙参照)。

3、全体で参加するｷｬﾝﾌﾟﾌｧｲﾔｰは、以前は幼稚園側に相談しながら学生が企画・計画・準備・実行していたが、昨年より1部は園児中心に、2部は学生中心に企画し、1部は幼稚園の先生の司会で行われた。「幼稚園の先生の司会進行の印象は?」すばらしい/感心した/よかった(125人)楽しかった(93)ﾊｷﾊｷ/ｽﾑｰｽﾞ/わかりやすい(49)明るい(35)元気がよい(32)おもしろかった(31)ﾌﾟﾛ・ﾍﾞﾃﾗﾝ(29)盛り上げていた(23)勉強/参考になった(21)こんな先生になりたい(12)等の回答であった(別紙参照)本来の教育実習では経験できない日常の保育ではない、行事の見学 参加実習が行われ、これは大きな効果が得られた。

4、園児係の「園児の意識」が高いのはあたりまえだが、間接的に関わる他の学生の意識こそ大切だと思う。なぜなら日常の保育であっても、子どもと接している時間以上に準備や段取りが大切である。全員の学生が2年次で経験して欲しいのだが他の係りの全面的な協力がなければ実行不可能な合宿保育だけに2年生の「園児の意識」が高かったことは嬉しいことである(図B)。全員の学生に意識づけることが我々養成校の教員の今後の課題である。この意識づけができてこそ「自分から関わろうとすること」(図C参照)「園児との接点」(図D参照)に大きくつながっていくであろう。

「教育実習 演習」と学校行事と関連教科が目的を共有し、一つの方向を持つよう実際に実施してきた。研修旅行は、体験的機会を増やすことを可能にしたばかりでなく、企画準備から始まり、一端ではあるが幼稚園側、教諭の立場の責任が打ち出されている。多方面に「教育実習 演習」の効果を上げている。

園児係は2年生になるとすぐに準備にはいる。それは授業や、本実習の合間をくぐって活動している。「ゆとり」が叫ばれている昨今、時間的にも内容的にも学生負担とならないように、学校全体の計画によりよく組み込まれるよう努力していきたい。

NII-Electronic Library Service